

第2-2期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（放射線技術科学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】 2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座を開催する</li> </ol>	
<p>責任者:放射線技術科学科長 分担者:武藤裕衣（学科教務担当） 事務局:教務課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>・学生教育用に準備された最新医療機器を使い、臨床現場に則した学内実習を実施し教育内容を充実化する。そのために、計画的な機器の更新・管理運用を行う。令和元年度には、X線撮影装置1台の更新とCTDI測定用ファントムの新規購入を計画している。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 購入・更新できた</p> <p>・本学科では、全国約300施設という日本最大規模の臨床実習指導施設と連携している。学生が希望する地域での質の高い臨床実習を実現するとともに、実習期間中のトラブルを防ぐため、改善点として以下を計画する。</p> <p>① 1.2年向けの「病院見学マニュアル」を作成し、全員対象の説明会を開催する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 病院見学のマニュアルを作成し、説明会を開催した</p> <p>② 3年4月時に臨床実習希望施設調査を行うとともに教員との協議面談等を経て臨床実習指導施設を仮決定する</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 全員無事に臨床実習指導施設が決まった</p> <p>③ 3年前期学内実習において、学内教員によりOSCE様の確認試験を導入する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 患者接遇を中心に行った</p> <p>④ 臨床実習中、毎日の適度な目標設定とポジティブフィードバックおよびリフレクションを促す独自の「臨床実習ノート(ポートフォリオ)」を作成し、効果的な経験学習を促進する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 実習ノートを点検した</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>臨床実習前学内実習において、医療安全や診療放射線技師の知識向上に資する講義およびグループワークを行う。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          講義およびグループワークを行った</p> <p>・臨床実習報告会を開催し、アクティブラーニングを実践する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          開催した</p>
<p>2. 学習支援と向学心の高揚</p>	<p>・1年次より担任制を導入し、個別面談体制を整えているが、成績下位者について、4月に行う面談では学科内で情報共有を行い、クラス担任のみならず教科担当教員からの学習支援を実施する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          面談を行ったが成果の上がらない学生がいた</p> <p>・欠席が目立つ学生に対して、授業担当教員(学科教員)と担任教員が情報共有連絡し、学生指導につなげる取り組みを継続する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          教務課の連絡や授業担当者からの情報を共有し学生の指導を行った</p> <p>・1年後期より開講される専門基礎科目・専門科目において、本学科が目指す専門資格(診療放射線技師国家試験、第一種放射線取扱主任者)の取得を意識した講義を行う。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          1年生では第1種放射線取扱主任者を受けなかった</p> <p>・ガイダンス時に学生に「カリキュラムマップ」に成績を記録するよう指導するとともに、面談等で担任が確認を行い、学習支援を行う。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          ガイダンスで説明を行い面談で確認した</p>
<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>・国家試験合格率の目標値は95%、入学者あたりの合格率は75%。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          国試合格97.8%、入学者あたり70.5%であった</p> <p>・入学者あたり合格率の目標を達成するため、特に国家試験対象科目の授業において早くから意識付けをし、学習意欲を向上させる。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          授業で国試の問題の解説を取り入れた</p> <p>・国家試験合格率の目標を達成するために4年進級時に診療放射線技師免許を有している教員が中心となって、国家試験対策を行いその情報を共有し、思いやりある姿勢で教育指導を行う。合格率をより向上させるための改善点として以下を計画する。          ① 成績不振者に対し、模擬試験終了後、学生自身が作成した解説書をクラス担任が確認し教育指導する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          指導するもできない学生がいた</p> <p>② 新傾向や応用問題への対応力を向上するため、年3回実施される業者模擬試験について、学生が受験するよう教育指導する。</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p> <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            経済的な理由で参加者が増えなかった         </p> <p>           この他、合格率の目標達成に向けた以下の教育指導を継続する。  <b>① 学科内に国家試験対策委員会を設置し、毎月会議を開催する。</b>  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            開催した         </p> <p> <b>② 4年後期、週一日、国試対策講義を開講する。</b>  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            10月、11月に補講として60コマ行った         </p> <p> <b>③ 年8回、学内模擬試験を実施する(学内教員が問題作成し、試験後に対策講義を開催する)。</b>  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            予定通り行った         </p> <p> <b>④ 模擬試験後の担任個人面談を実施し、生活状況の改善や国家試験学習支援(個人指導)を行う。</b>  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            行ったが成果の現れない学生がいた         </p> <p> <b>⑤ 模擬試験成績不振者への保護者への成績通知を行う。</b>  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            行った         </p> <p> <b>⑥ 過年度4年生に対し、特別留年支援制度を活用して、成績の振るわなかった科目の繰り返し履修と国試対策用特別補講の開設を行う。</b>  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            行った         </p> <p> <b>⑦ 過年度4年生に対して、教員居室の近くでの自習室を設定するとともに、担任は担当学生の学習達成状況を面談またはSUMS-POにより把握する。毎月開催する国家試験対策会議にて指導状況を共有し、学習支援を促す。</b>  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            促した         </p> <p> <b>・10月以降模擬試験や9月以降国家試験対策講義(放射線科学特論)では、座席を模擬試験成績順(成績下位者から順に前方)に指定席を設定する。</b>  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            予定通り行った         </p>
<p>4. 市民公開講座を開催する</p>	<p> <b>・診療放射線技師の職務内容を広く多くの方に伝えるために市民公開講座を開催する。</b>  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            開催した         </p>

第2-2期の活動計画の達成状況

重点分野 12 : 各学科教育の特色 (医療栄養学科・管理栄養学専攻)	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <p>1. 医療栄養学科内専攻合同演習授業の構築 2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 5. 市民公開講座の実施</p>	
<p>責任者: 医療栄養学科長/管理栄養学専攻長 分担者: 三浦俊宏 (管理栄養学専攻教務委員) 事務局: 教務課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 臨床検査学専攻との合同演習授業の構築	<p>1. 本学科が管理栄養学専攻と臨床検査学専攻からなる特徴を生かし、両専攻学生の相互理解を深めて将来の医療人としての見識を広める試みを進める。管理栄養士と臨床検査技師が共に参加するチーム医療である栄養サポートチーム(NST)等を題材にして、両専攻の学生が参加した演習授業を、木曜日1限の活用等により実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 管理栄養学専攻4年生学生が臨床検査学専攻3年生学生に対して栄養指導を実施し、双方の学生から好評であった。</p> <p>2. 学科内の二専攻学生の相互交流を活発にするため、様々な交歓会を企画する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 上記合同演習に加えて、両専攻の卒業研究発表会、スポーツ交流会、1年生オリエンテーションなどを合同で実施した。</p> <p>3. 学科内の両専攻学生が、相互に他の専攻の授業を聴講することを可能としたので、聴講状況の分析を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 実際に参加した学生はなかったため、アンケート調査を行い問題点を分析した結果、現行カリキュラムがタイトであることやそれぞれの専攻で開講されている選択科目を優先することなどの状況がわかった。</p>
2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>1. 学生の学年進行に応じた学習のアウトカムを確認するために、アチーブメントテストを3年生から順次導入し、その活用を図る。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 3年生のアチーブメントテストを実施した。それを基に各学生の学習習熟度を振り返らせる機会とした。</p> <p>2. 臨地実習の重要性に鑑みて、受け入れ施設との十分な事前協議を図るとともに、派遣学生の習熟度評価と実践的能力向上の取り組みをめざす。上記アチーブメントテストを学生の習熟度評価に反</p>

	<p>映させる方向で検討する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          全ての派遣先施設との事前準備が完全に実施されたわけではなく、今後さらなる実習前準備に取り組む課題が残った。またアチーブメントテストの結果を実習参加要件に反映させる方向で検討に着手した。</p> <p>3. 実習試験の導入と拡大          実習の効果をより可視化し適正な評価を行うために、実習の評価法としてレポートによるだけでなく、実習試験を実施するようになってきた。この方向性を継続拡大し、学生の自主的学習態度の涵養に務める。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          生化学学実験、基礎栄養学実習に導入し、実習内容の修得を向上させた。</p> <p>4. IR 室との連携を基礎にして、学生の教育および生活の問題点を解析し、その解決を図るための検討資料とする。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          教育の質保証委員会に IR 担当委員を加えて課題の掘り起こしに活用する体制が整った。</p> <p>5. “教育の質保証委員会”を設置して教員がシラバスに沿った教育を進めていることを評価確認し、必要に応じて助言する体制確立をめざす。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          上記内容の活動を実施した。</p> <p>6. 学科内に教務委員会を立ち上げているので、問題点を両専攻の枠を超えて協議する体制をより充実させる。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          上記の体制を取っており、両専攻間で情報共有と教育の質、効率向上に役立っている。</p>
<p>3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. 学生の将来のキャリアプランニング充実を目的として、卒業生を含む学内外の人を招き、モチベーション向上につながるような授業形式の懇話会／セミナーを計画する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          就職担当教員から学生に積極的に声がけをした。卒業生など外部講師を招いた懇話会は開催したが、量的、質的により向上していく課題が残った。</p> <p>2. 早期導入教育の充実          1年生底力教育を利用して、管理栄養学専攻の立案に基づいて病院や福祉施設での管理栄養士の仕事を見学する機会を設け、早期の段階から学生の向学心高揚を目指す。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          上記カリキュラム内で実施し、学生からも好評であった。</p> <p>3. リメディアル教育の実効性向上          受験者数減少が進み、入学者の学力レベル低下が懸念されるためリメディアル教育の充実喫緊の課題である。対象となる学生にリメディアル教育への参加を促し、成果としての学修到達度を担任教員が把握してモチベーション向上をはかるように指導する。</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          1年生担任教員も積極的にフォローし、一定の成果が得られた。一部に学生に十分な自覚と理解が得られない事もあったので、今後の改善を目指す。</p> <p>4. グループワークやアクティブラーニングなどをカリキュラムに導入して、学生が相互に学習することで向学心高揚につながるような機会を作る。          ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          講義、実習に導入して学生が自ら学ぶ姿勢の涵養が進んだ。国家試験対策でも学生相互の学習情報の共有という点で成果があった。</p> <p>5. 国家試験対策学習支援の充実          国家試験対策の柱となる模擬試験の結果を常時モニターし、模擬試験では終了後直ちに振り返り学習の時間をとることにより、学生が自ら集中すべき学習項目の確認できるようにする。また、成績不振者には集中して補講や個別指導、及び保護者を交えた面談などを行い、従来から進めてきた学生個々に応じた指導を継続する。          □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          上記の方針で進め、学生の自主的な努力を支援した。ただし、保護者面談は保護者の都合で予定したものは実行できなかった。</p>
<p>4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 管理栄養士国家試験合格率の目標は100%とする。また、進路変更学生を除いて入学者あたりの合格率は90%を目標とする。          □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          100%合格の目標は達成できなかった。特に合格圏にあると判断した学生や資格取得の意欲に乏しい学生が不合格となったことは指導体制の反省点である。</p> <p>2. カリキュラムとして4年生前期の総合演習II、及び医療栄養学特別演習で指導を行う。          ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          本専攻教員が一丸となり、指導に当たった。模擬試験を学生に振り返らせ、理解が進まない点について重点的に指導を行なった。</p> <p>3. 3年生以下の学生も国家試験問題に接する機会が持てるようにして卒業までに求められる学習のアウトカムを具体的に意識させる。3年生にも模擬試験受験を可能にするように指導する。          ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          3年生までの講義に国家試験出題例を積極的に導入して、4年生以前の段階からのモチベーション向上を支援した。</p>
<p>5. 市民公開講座の実施</p>	<p>臨床検査学専攻と連携して、健康と栄養についての理解を広げるために市民公開講座を企画する。          ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          2020年2月1日に市民公開講座を開催し、好評であった。</p>

第2-2期の活動計画の達成状況

重点分野 12:各学科教育の特色(医療栄養学科・臨床検査学専攻)	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 管理栄養学専攻と臨床検査学専攻の合同演習授業の構築</li> <li>2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>5. 市民公開講座の開催</li> </ol>	
<p>責任者:医療栄養学科長／臨床検査学専攻長                      分担者:吉子健一(臨床検査学専攻教務委員)                      事務局:教務課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 管理栄養学専攻との合同授業の構築	<p>1. 学生が将来の医療人としての見識を広める試みとして、管理栄養学専攻と臨床検査学専攻からなる特徴を生かし、管理栄養士と臨床検査技師が共に参加する多職種によるチーム医療である栄養サポートチーム(NST)等を題材にして、両専攻の学生と教員が合同で実施する演習授業を、木曜日1限の活用等により実施する。                      ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)                      上記達成状況の具体的内容                      2019年度前期(5月～6月)管理栄養学専攻4年生が臨床検査学専攻3年生に対し栄養指導を実施した。</p> <p>2. 学科内の二専攻学生の相互交流を活発にするため、様々な交歓会を学生主導で実施する。                      ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)                      上記達成状況の具体的内容                      2019年度後期(10月)に両専攻4年生主導で球技大会(ソフトバレーボール、ドッジボール)を行った。</p> <p>3. 学科内の両専攻学生が、相互に他の専攻の授業を聴講することを可能としたので、その利用状況等の検討を行う。                      ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)                      上記達成状況の具体的内容                      両専攻共に聴講する学生はいなかったため、原因究明のためアンケート調査を行い解析した。</p>
2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>1. 試行的に3年生に限定し2019年度後期のアチーブメントテストを実施する。                      ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)                      上記達成状況の具体的内容                      2019年9月12日(木)に実施した。本試験は成績と紐づけられていないので、高得点者を表彰することで、努力をねぎらった。</p> <p>2. 学科教務委員会にIR担当委員をおき、IR推進室との連携を深める。第2-1期に引き続きIR分析報告に基づき、指導方法の改革・改善に向けたIRの利用について検討を行う。</p>

	<p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 過去の GPA の算出に関して 1 年次、2 年次、3 年次、4 年次ごとに以下のデータを依頼した。1) 全科目に関しての GPA (従来通り)、2) 専門科目だけの GPA (新規依頼)。これらのデータを基に分析して指導に活かす予定。</p> <p>3. 2018 年度より実施される検体採取業務に関する講義・実習に関して、状況をモニタリングし検討を行う。 また、2019 年度より新たに再生医療技術学(3年次)を実施し、授業評価等で内容を評価すると共に 2020 年度より新たに始まる再生医療技術学実習(4年次)の実施に向けた教育内容や担当者の具体的な検討を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 検体採取業務に関する講義・実習に関しては、概ね順調であった。 再医療技術学に関しても、全般的に好評であり、再生医療関連企業の方の講義が特に好評であった。</p> <p>4. 臨床検査と臨床病態との関連性に関する教育の充実。 臨床検査医学演習(R-CPCを含む)の実施方法の改善に向けて、引き続き授業評価を参考にして検討を行う。また、本授業で学習した内容を基に、前項の「専攻の学生と教員が合同で実施する演習授業」の一環として、臨床検査学専攻の学生が管理栄養学専攻の学生に対し病態・検査説明を行うことにより、臨床検査と臨床病態との関連性についての理解を深めさせる取り組みについて検討を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 臨床検査医学演習(R-CPCを含む)の学生授業評価結果で、2018年度は「とても良い」と「良い」が 66%であったのに対し、2019年度はそれが 88%と改善していた。 学生から好評である学会(2019年度は三重学会)へ参加し、数ヶ月後の臨床実習に向け、病態に関する知識を深めると共に病態を学ぶ意欲を高めた。</p> <p>5. この秋より具体的検討に入る予定の臨床検査学教育コアカリキュラムへの対応を視野に入れ、知識、技能、接遇を柱とした臨床実習前教育体制作りの検討を開始する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 12月19日に挨拶、手洗い、心電図について OSCE (Objective Structured Clinical Examination)を行った。</p> <p>6. 第2-1期に引き続き、学科教務委員会で従来通り関連する課題について専攻を超えて共有しながら解決を図ると共に、“教育の質保証委員会”の設置(案)に準ずる活動(IRやLSMの担当者を決めなど)の実施に向けて検討する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> ほぼ月1回、学科教務委員会(両専攻合同教育の質保証委員会)を開催した。</p>
<p>3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. 第2-1期における検討・準備の下、1年前期の医療人底力実践(基礎I)での病院見学に加え、OB・OGとの意見交換の場を設け臨床検査技師としての将来像をイメージさせる。</p> <p>■達成(100%)、ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 医療人底力実践(基礎I)において、鈴鹿中央総合病院の見学、並びに1期生及び2期生のOG・OBとの意見交換を実施した。</p>



鈴鹿医療科学大学

	<p>2. 木曜日1限等を利用して、学内の教員や外部講師(各種現場で働く臨床検査技師など)による講演を中心とした、キャリアプランニング授業の構築について具体的な検討を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 医療人底力実践(基礎Ⅰ)、再生医療技術学、免疫検査学実習で、OB・OG や関連企業の方を外部講師として招き、キャリア形成に関する内容を含めて講義を行なって頂いた。</p> <p>3. 第2-1期に引き継ぎ、1～3年の後期終了時に行っている成績不振者に対する二者ないし三者面談で、IR 推進室の分析報告を活用し目的意識・学習意欲を高めると共に、学習方法の指導・支援を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 原級留置者及びそれに準ずる学生に対しては三者面談、その他の学生(成績不振者:再試験数の多い学生)等に対しては二者面談を行い学習方法の指導や支援を行った。</p> <p>4. 第2-1期に引き継ぎ、3年生後期の臨床検査医学演習の授業に三重県医学検査学会の参加を組み入れて、向学心を高める。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2019年度は三重学会に3年生全員が参加し向学心を高めた。同時に、有志が学生フォーラムで発表を行い高い評価を得た。</p>
<p>4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>臨床検査技師国家試験の現役受験者の合格率を100%に、入学者(進路変更を除く)あたりの合格率を90%に設定し、以下の取り組みを行う。</p> <p>1. 成績不振の学生に対しては、補講や面談といった人手による手厚いケアを行い、モチベーションを含めて成績の向上を図る。また、定期試験や模試結果の詳細な分析結果に基づき、全教科に共通する効果的な教育法を構築する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2019年度の現役受験者の合格率の全国平均が83.1%と昨年より3.4%低下した中で、本専攻の合格率は昨年度の75.6%から96.2%と大きく改善した。</p> <p>2. 成績中位以上の学生に対しては、覚えた知識をアウトプットする訓練を行うツールとして、eラーニングシステムの構築を進める。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 荻津教授(卒業研究テーマとしている)を中心に(学科内教務委員会でも議論しながら)、その構築と有効利用法について検討・試行している。</p>
<p>5. 市民公開講座の開催</p>	<p>管理栄養学専攻と連携して、健康と栄養についての理解を広げるために市民公開講座を企画する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2020年2月1日(土)に第1回を「健康と栄養」と題して開催した。</p>

第2-2期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（リハビリテーション学科・理学療法学専攻／理学療法学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】 2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の開催</li> </ol>	
<p>責任者:理学療法学科長/理学療法学専攻長 分担者: 事務局:教務課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>・初年次, 基礎専門科目(解剖学, 生理学, 運動学)の到達目標を明示し, 定期的に到達度をチェック, 学生にフィードバックする。 2020年度に向け, 解剖学に続き生理学も e-learning の導入を検討する。 ドロップアウトが懸念される学生には, 個別指導と同時に保護者にも通知する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 解剖学の e-learning アプリケーションを導入, 活用中。個別指導は継続中。生理学, 運動学については予算の都合上, 臨床実習ポートフォリオ用ソフトウェアの導入を優先する。</p> <p>・指定規則改定に対応するカリキュラムの準備(実習・演習方法, 機材) ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 年度内に予定していた開講に向けた機器, 臨床実習指導者養成は, 遅れなく完遂できた。</p>
2. 学習支援と向学心の高揚	<p>・1, 2年次に臨床見学, 障がい者スポーツイベント, 学会参加を通じ, 将来の職域, リハビリテーションへの理解を深めさせる。同時に学生自身の将来像の具体化, 動機付けを図る。特に 2021 年の全国障害者スポーツ大会の県内開催に合わせ, イベント参加, ボランティア活動を促進する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 すべてのプログラムを実施した。</p> <p>・上級生の実習見学, モデル参加を通じて, 基礎医学の重要性, 理学療法士の資質への理解を深めさせる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1年生全員参加の下, プログラムを実施した。</p>

鈴鹿医療科学大学

<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験合格率の目標値は95%、入学者あたりの合格率は80%とする。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            国家試験合格率100%、入学者あたりの合格率は80%</li> <li>・定期的な模試の実施と成績不良者に対するフィードバックにより、学生自身に国家試験合格に必要な能力と現状のギャップを認識させる。成績不良者の多くは学習計画、実行、振り返り、再計画の過程全てが不十分なため、全ての過程で助言、指導する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            前年度より、実施回数を増やし、すべてのプログラムを実施した。</li> </ul>
<p>4. 市民公開講座の開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会貢献の一環として市民公開講座を開催する。</li> <li>・テーマは「ロコモティブシンドローム」、「フレイル、サルコペニア」、「介護予防、転倒予防」など、地域住民の暮らしと健康に関連したものとする。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            作業療法専攻担当で市民公開講座「認知機能と自動車運転」を実施した。</li> </ul>

第2-2期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（リハビリテーション学科・作業療法学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】 2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育内容の充実と教育方法の充実</li> <li>2. 専門職としての動機付けと向学心の高揚</li> <li>3. 臨床実習のための準備と臨床実習指導者の育成</li> <li>4. 市民公開講座の開催</li> </ol>	
<p>責任者：リハビリテーション学科長 分担者：作業療法学専攻長 事務局：教務課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1 教育内容の充実と教育方法の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年次の基礎専門科目(解剖学, 生理学, 運動学)の到達目標を明示し, 年度末に到達度をチェック, 学生にフィードバックする。 ドロップアウトが懸念される学生は, 個別指導と同時に保護者にも通知する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 年度末にこれらの科目に関する模試を行い, 到達目標が明らかにした。来年度は到達目標レベルに分けて特別講義を用意している。また, 成績不振者において保護者にも通知するようにした。</li> <li>・4年間の系統だったカリキュラムと各学年での到達目標の立案を実践する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1年次にカリキュラムで何を行うかをオリエンテーションし, 現在は基礎科目の習得に時間を使用していることを共有している。</li> <li>・オムニバス科目の「リハビリテーション概論」を専攻全体で検討して, 充実させる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 オムニバス形式の科目であるが各先生には小テスト, 国家試験を踏まえた試験問題を作成するように全体に共有して科目履修が進めることができた。</li> </ul>
2. 専門職としての動機付けと向学心の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻の広報ビデオ制作やオープンキャンパスに学生を参加させ, 今後学べき専門分野, リハビリテーションへの理解を深めさせる。これらの機会を通して教員に協力させることにより学生の専攻に対する帰属意識を喚起させる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 専攻のビデオ作成, オープンキャンパスなど学校行事において学生には参加の意義をホームルームでオリエンテーションし, 学生のリーダーのもと学生を配置することができ, 学生参加を通して専攻の帰属意識が高まった。</li> <li>・大学祭の専攻企画を自主的に考案させ, 作業療法の啓蒙活動を行う。専攻教員とサークル活動を立ち上げ, 教員との関係を構築させる。</li> </ul>

鈴鹿医療科学大学

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>大学祭には、学生全員が参加できるように担当がコーディネートし、学生主体に企画を考えた。その企画の中で作業療法の啓蒙を大学祭に参加した市民等に説明することができた。また、三重県士会の協力も仰ぐことができ、県士会との交流もできた。</p>
<p>3. 臨床実習のための準備と臨床実習指導者の育成</p>	<p>・4年間の臨床実習の手引きの作成と新指定規則に沿った臨床実習のモデルを「理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン」と作業療法臨床実習指針(2018)を参考に考案する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>臨床実習の手引きについて作成を担当する教員を決め、作成することができた。この手引きを2020年度に予定している臨床実習指導者会議にて使用し、臨床実習が円滑に履行できるようにする。</p> <p>・新指定規則に沿った臨床実習指導者講習会を三重県士会と協力して開催し、臨床実習指導者を育成する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>臨床実習指導者講習会を三重県士会と協力し、年2回開催することができた。この1回の講習会に当大学を会場とし、教員が講師とファシリテータの役割で参加した。この講習会により臨床実習の指導者の育成に寄与できた。</p> <p>・学生に対して臨床実習の学習方法を検討する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>1年生の担任を中心に4年間で臨床実習に向けた学習目標を作成し、隔年度ごとの行動目標と講義での指導を確認した。</p>
<p>4. 市民公開講座の開催</p>	<p>・市民公開講座については他団体と協力して開催もしくは講座の講師として教員を派遣する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>市民講座「認知機能と自動車運転」を大学にて野口助教の講師のもと開催することができた。超高齢社会での運転に興味のある市民が参加され、有意義な時間を過ごすことができた。</p>

第2-2期の活動計画の達成状況

重点分野 12 : 各学科教育の特色 (医療福祉学科・医療福祉学専攻)	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】 2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践力を備えたソーシャルワーカー養成のための教育内容の充実と教育方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の開催</li> </ol>	
<p>責任者: 医療福祉学科長 / 医療福祉学専攻長                      分担者:                      事務局: 教務課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
<p>1. 教育内容の充実と教育方法の更なる改善</p>	<p>医療ソーシャルワーカー、精神科ソーシャルワーカー、スクールソーシャルワーカー、コミュニティソーシャルワーカー、地域包括支援センターや行政機関のソーシャルワーカーとして活動する人材を育成するため以下のことに取り組む。</p> <p>①疾患や障害を抱える当事者や当事者家族をはじめ、地域の生活困窮者や社会的に孤立している人々を支援するため、アセスメントからモニタリングに至る一連の相談援助プロセスを理解し PDCA サイクルに即して実践できるように、相談援助に関わる講義科目と演習科目の連携を強化し、知識と技術の一体化を図る。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>本学を卒業して、社会福祉士(医療ソーシャルワーカー、地域包括支援センター、行政機関のソーシャルワーカー等)および精神保健福祉士資格を活かしてソーシャルワーカーとして活動したいと考えている学生たちが、将来地域で障害や疾患を抱える当事者・当事者家族あるいは生活困窮者や地域で孤立する当事者を適切に支援(実践)できるように講義科目と演習科目との連携を強化し、知識と技術の一体化を図り、大きな効果を上げた。</p> <p>②地域社会とのつながりを重視し、若年性認知症サポート、BBS 会、日本てんかん協会三重県支部や日本パーキンソン病友の会三重県支部等の当事者会、桜の森白子ホームなどの社会福祉施設におけるボランティア活動等を通して、福祉ニーズを肌で感じ取るとともに、地域福祉計画や高齢者・障害者・児童などの各分野の福祉計画の立案および評価に参画するなどして、福祉実践の現場と学問とが融合した環境でソーシャルワークの展開が学べるようにする。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>教員が学生とともに各種当事者団体、社会福祉法人等において、積極的にボランティア活動を行うことによって、地域社会とのつながりが実現し、このことによって学生は福祉マインドを実感することが可能となった。さらに、教員が社会福祉法人等の評議員や各種委員として貢献していることにより、地域社会や社会福祉法人、施設、医療機関との関係性が極めて良好である。そのため、医療福祉現場での実践についてはとくにその効果が顕著に現れ、社会福祉学の学びと実践との融合が実現した年度であったと評価できる。またその結果、当事者団体(公益社団法人日本てんかん協会)より、本学および教員双方が功労賞を受賞した。</p>

	<p>③アセスメント力とコーディネート力を身に付けたソーシャルワーカーとしての実践力を高めるため、ロールプレイなどアクティブラーニングを可能な限り多くの授業に採り入れる。学生にとって理解しやすい授業関係資料を学生の到達度に応じて提示するなど、きめ細やかな対応を心がけていく。  <b>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</b>  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                  多くの授業（講義・演習）において、アセスメント力とコーディネート力を修得するために、工夫を凝らしたロールプレイなどアクティブラーニングを授業に採り入れた。この成果として、ソーシャルワーカーとしての資質の向上、さらには面接技術の向上など、医療福祉専門職に求められるスキルアップを実現させることへと繋がった。</p> <p>④具体的な事例の検討、ゼミ単位でのグループ学習、学外学習、社会貢献活動などより、学生の興味の幅を広げるとともに主体的な取り組みと行動力を養うこととした。  <b>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</b>  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                  医療福祉演習においては、教員が各自の専門的な知識を活かして事例検討（一般医療機関・精神科医療機関・福祉施設・福祉（司法）行政機関等）や学外学習（人権センター等）、社会貢献活動（日本てんかん協会、日本パーキンソン病友の会等の当事者団体）を実施することによって、専門的な視点を広げる結果となった。</p> <p>⑤障害学生に対する教育環境の改善に取り組み、共生社会の実現に貢献するソーシャルワーカーの養成を目指す。  <b>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</b>  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                  学生の中には、ハンディを抱える者も存在し、その学生たちが生き生きとした学生生活を営むことができるように、講義においては「合理的配慮」に関する内容を盛り込むことによって、全学生が当事者の課題を共有することができる段階へとステップアップすることができた。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>学生間の学力の差を縮め、理解力に応じた丁寧な学習支援を目指し以下のことに取り組む。</p> <p>①国家資格の指定科目に関して、講義科目についてはテキストを用いた予習・復習を推奨するとともに、演習科目については振り返りの復習を強化する。  <b>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</b>  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                  国家試験科目の予習と復習について、担当教員が課題を出し、学生は毎回それに取り組むようにしている。おおよそ、8割近くの学生が真面目に取り組むことによって、国家試験の合格率にもその成果が反映されたものと理解している。</p> <p>②先輩や社会人で実際にソーシャルワーカーとして勤務している専門職の講義や、施設や社会福祉協議会などでの相談援助実習やフィールドワークを通して、福祉現場やソーシャルワークへの興味関心を引き出し、早い時期から対人援助職のイメージ化を図る。  <b>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</b>  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                  多数の科目において医療福祉現場で活躍する卒業生を招き授業を行うことによって、在学生の大きな刺激となった。在学生の中には、卒業生の魅力ある講義内容によって将来の進路を決定する者が何人も出てきた。また、2名の教員が主宰する研究会（医療福祉研究会）に数多くの卒業生（医療ソーシャルワーカー、精神保健福祉士）と在学生が参加することによって、在学生は早い時期から卒業後の進路に夢を描くことができている。</p>

	<p>③専門職団体(社会福祉士会・精神保健福祉士協会・医療ソーシャルワーカー協会等)との関わりを深め、多様化し変化していく福祉ニーズをいち早く把握し対応していくあるべきソーシャルワーカーの姿を学べるようにする。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>教員と専門職団体との関係性は極めて良好であり、交流も盛んである。また、各種団体から(三重県医療ソーシャルワーカー協会、三重県精神保健福祉士協会等)は記念講演や講座の講師として依頼を受ける機会が多く、学生も各種団体の学生会員として研修会に参加している。また、1年間を通じて医療機関(一般・精神)や福祉施設への見学研修を複数回行うことによって、専門職との関係性と連携とを強めてきた。そのことをとおして学生の就職にも良い結果を与えている。</p> <p>④地域の貧困やネグレクト、権利侵害や虐待に対する敏感な感覚を養い、ボランティアやインフォーマルサービスなどをネットワーク化していく体験を増やす。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>全教員が、引きこもり・自死・貧困・権利侵害・虐待等に対するテーマに精通していることにより、これらのことを授業において頻繁に取り上げることとおして、学生の意識変革を実現し、その結果専門職としてネットワーキング力を高めることができた。</p> <p>⑤ICTの活用や学生との個別面談により、学習方法の相談に応じ就学上の課題解決に取り組むとともに、成績不良者については学習意欲の向上にむけて保護者との連携・調整を強化する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>ICTの活用、学生との個別面談によって、多様な学生のニーズや課題に対応できるようになった。成績面において課題のある学生については、保護者との関わりを大切にしながら改善に向けて工夫をした。</p>
<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>本学科卒業の第1期生から13期生までの13年間の社会福祉士国家試験の平均合格率は59.1%(全国18.8~30.6%)、精神保健福祉士は本学79.8%(全国56.9~63.3%)であり、全国的にも高水準の合格率となっている。今後もこの水準を維持するため以下のことに取り組む。</p> <p>①社会福祉士国家試験合格率の目標値を70%、精神保健福祉士合格率の目標値を90%とする。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>3年生の時点より受験までの間に約15回の模擬試験を実施している。各学生の学習状況を把握し、理解度に応じた学習内容についても分析を加えることによって、合格可能性を高めるように試みることによって目標を達成した。</p> <p>②入学者あたりの社会福祉士の合格者を40%、精神保健福祉士の合格者を20%とする。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>4年次の4月に実施する模擬試験直後から個別面談を行うことをとおして、就職先や進路希望等と併せて国家試験受験希望の有無を確認した上で、進路の意向に応じて学生に対しては、国家試験勉強の方法や日常生活リズムの調整方法等についても指導を行った。さらに、合否可能性の分析結果をもとに必要に応じて個別に面接を行い、進路確認と国家試験受験の最終確認を行った。</p> <p>③全国レベルの模擬試験と学内での模擬試験、3年次から、年間おおむね10回実施し、その結果をデータ化し個別面談において学習成果の確認に活かす。</p>



鈴鹿医療科学大学

	<p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          3年次からは、模擬試験をもとに解答解説を丁寧に行い、学生の到達度に応じて個別に状況把握を行い必要に応じて学習指導を行った。</p> <p>④学内教員全員で国家試験対策講座を分担するとともに、東京アカデミーによる補習講座を4年次に実施する。成績の低迷している学生には、個別の学習支援を行う。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          教員全員で国家試験対策講座を分担し、さらには東京アカデミーの講師陣によるキメ細かい対策を行った。学生からは適切な学習方法が理解できたと大変好評であった。</p> <p>⑤学生の到達状況について保護者へ通知し、到達度が低く学習意欲の乏しい者には三者面談を実施するなど、保護者の協力を要請する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          ゼミ担当教員より保護者へ連絡をし、面談によって協議を行い、その結果協力を得ることができた。</p> <p>⑥学生の自主的な国家試験の過去問題への取り組みを促すとともに、日頃から指定科目の授業をしっかりと学習し幅広い知識の獲得に務めるように絶えず呼びかけていく。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          各教員が、個別に国家試験対策授業を実施し、「過去問や教員が作成した問題」への取り組みを行った。さらに、研究室において直接指導を行ったり、メールにて指導を行ったりすることによって、学生の指導にあたった。</p>
<p>4. 市民公開講座の開催</p>	<p>①学科(医療福祉学専攻)が主催する市民公開講座に多数の学生の出席を促すとともに、現場ソーシャルワーカー、地域住民を招待し、学内外の交流の場とする。なお、公開講座の講師には、身体障害者、知的障害者、精神障害者、高齢者、児童、引きこもり、不登校など、いわゆる「社会的弱者」を支援する支援者を招くよう計画立案する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          昨年度は、冬期に市民公開講座を予定していたものの、新型コロナウイルス感染症の拡大により、当日講演(「犯罪と逸脱の心理学：台湾の現状と展望」)予定であった戴伸峰講師(台湾国立中正大学教授)より辞退の申し入れ(出国に対する不安)が示されたため、急遽公開講座を次年度に延期する運びとなった。ただし、本公開講座の準備は滞りなく運んでいたため、「ほぼ達成(実行中)80%」と評価した。</p>

第2-2期の活動計画の達成状況

重点分野 12 : 各学科教育の特色 (医療福祉学科・臨床心理学専攻)	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】 2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学部教育と大学院教育の連携による学部教育の魅力づくり</li> <li>2. 大学院教育及びこころの相談センターの地域貢献を充実させる</li> <li>3. 市民公開講座の開催</li> </ol>	
<p>責任者: 医療福祉学科長 分担者: 臨床心理学専攻長 事務局: 教務課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 学部教育と大学院教育の連携による学部教育の魅力づくり。	<p>○公認心理師・臨床心理士養成を主とした本専攻では、大学院生に、大学院修了時における大学院生の姿が明確になってきました。それには、臨床実践に適った援助姿勢と技法を身につけることと、そのバックボーンとなる様々な理論を学ぶことです。そして、このことこそが、臨床心理学専攻の特色であり、魅力づくりに繋がります。</p> <p>まず学部段階では、当事者の生物・心理・社会的視点から理解するための理論を学び、学部段階で身につけるべき実践能力を身につける必要があります。</p> <p>以上の方針を、これまで以上に教員間の意思統一を計り、公認心理師試験を意識した講義を行うと共に、教員各自が担当する科目内容を実践に則したものにしています。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>教員全員が、上記の方針を共有し、基礎科目、専門基礎科目、専門科目の全てを統合的に学ぶことが心理実践に必要なことを共有し、各担当講義で学生に繰り返し説明することを行ないました。また、現在学んでいることが実践においてどのように役立つのかイメージできるように、具体的な実践事例を提示しながら講義しました。</p> <p>○公認心理師国家試験において出題される問題のうち、学部段階で学ぶ概論的知識問題は心理学辞典及び臨床心理学辞典に掲載されている用語を選択肢から選ぶような問題なので、予備校における模擬試験用問題を解くことで解答率を上げることが可能です。実践重視の本専攻ではこの訓練を授業中に行うことはせず、その補完の為に、大学院生、学部生による縦の勉強会であるサイコクラブを発足させました。今年度は、秋の大学院入試終了後卒業論文を書き上げる頃に、本学大学院進学生を中心に公認心理師国家試験勉強会を発足させて、来年3月までに学部段階での解答率を引き上げます。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>公認心理師科目においては講義の中で、過去の公認心理師や臨床心理士の試験問題を扱い、重要な点を強調しました。本学卒業生で本学大学院進学者については、大学院入学前に公認心理師試験対策を行うよう指導し、具体的な勉強方法について提示しました。</p>
2. 大学院教育及びこころの相談センターの地域貢献を充実させる	<p>○大学院修了時における大学院生の姿が明確になってきました。</p> <p>現在、大学院修士2年生はこころの相談センターにおける1年間の実践の学びにより、実践力の力が向上し、指導教員のスーパービジョンのもと</p>

	<p>で、各自でクライアントを担当し、カウンセリングを実施し始めています。すでに各院生は4事例から5事例を担当しています。修士課程修了時には、専門職員として勤務する外部専門相談機関において、充分に実践可能な能力を養うことが重要な目標になります、教員は彼らの実践力をますます向上させるためのスーパービジョンを行うこととなります。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>大学院2年生の 2019 年度におけるケース担当に伴う実習時間の平均は 316 時間でした。この時間数は、厚労省の定める内部実習時間を上回るもので、充実した実習を提供できていることを示します。</p> <p>○このことは、地域連携・貢献という本学こころの相談センターが重要な役割をこれまで以上に果たすことが可能になっているとも言えますし、実際に鈴鹿市を中心とする地域からの評価も高まっており、来談者からの紹介による相談依頼件数が増大しています。この好評価を持続させるための地道な活動を続けます。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2019 年度の延べ相談件数は 1,706 件で、2017 年度の 580 件、2018 年度の 1,145 件に比較して、著しく増加しています。</p> <p>○大学院修士2年生は修士論文を書き上げる年度になりました。臨床心理学分野における修士論文は実践事例論文です。修士2年で修了予定の全ての院生が無事修士論文を書き上げて、本学大学院の主目的である公認心理師および臨床心理士受験に合格するための準備を行えるように指導します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2019 年度修了生全てが、実践事例に基づく事例研究を行い修士論文として提出することができました。</p> <p>○公認心理師・臨床心理士資格受験については、2020年1月から準備会を発足させて、サイコロクラブとして学部専攻生を巻き込んだ勉強会を運営させます。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>全体会議で1回、各グループでは延べ約 10 回開催されました。</p>
<p>3. 市民公開講座の開催</p>	<p>臨床心理学分野教員による、臨床心理実践の知見を基にした公開講座は、鈴鹿市教育委員会のみならず、心の問題を抱える一般家庭の方々からも期待されており、毎年開催してきました。2019年度も9月に公開講座開催を予定しています。</p> <p>また、昨年度すでに、本学こころの相談センターにいられている不登校生徒の御両親だけでなく、小・中・高の先生方やスクールカウンセラーのみに相談されているご両親も参加可能な“不登校親支援の会(3か月6回開催)”を開催し、好評価を得ましたので、2019年度も10月から同様の形式で開催する予定です。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2019 年度は不登校親の会が7回、発達障害親の会が5回開催されました。鈴鹿市教育委員会などとの連携に関しては、若手教職員対象の研修講座、中学校不登校対策担当者ミーティング、不登校傾向の中学1年生のケース会議、小中連携の事例検討会などが開催されました。</p>

第2-2期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（鍼灸サイエンス学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <p>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 4. 市民公開講座の開催</p>	
<p>責任者:鍼灸サイエンス学科長 分担者:高木久代、浦田 繁、廖 世新、鈴木 聡、本田達朗、水野海騰、張 文平、長岡伸征、高木 健、瀧本未来 事務局:教務課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>1 キャリア教育の充実 ①キャリア教育講演を年1回開催する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 4期生の土屋先生、5期生の宇佐美先生による講演を開催した。</p> <p>2 臨床実習の量の拡充と質の向上のため、下記見学実習を実施。 ①桜の森白子ホーム。 ②三重大学医学部附属病院麻酔科(統合医療・鍼灸外来)。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 三重大学は6月、桜の森白子ホームは12月に実施した。</p> <p>3 鍼灸スポーツトレーナー学専攻における教育内容の充実 ①スポーツトレーナー学および資格試験の知識と技術をアウトプットするフィールドワークを実施する。施設および実施内容を検討。 ■達成(100%) □ほぼ達成□(実行中・80%)遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 鈴鹿市にあるホンダヒートラグビーチームと連携し、施設見学2回、練習試合のインターントレーナーを6回実施した。</p>
2. 学習支援と向学心の高揚	<p>1 個人面談 担任による反復した面談を実施し、常に学習状態、生活状況などの情報を収集しながら学生とのコミュニケーションを欠かさないようにする。成績不良者に対する学習改善だけでなく、自主性や向上心を持てるように手厚い指導を継続する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 反復した面談により情報収集を行い、手厚い教育を継続している。</p> <p>2 意欲向上・交流促進のため、レクリエーションを企画 球技大会、取穴大会(ツボの位置や暗唱を競い合う)を実施。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 6月に球技大会、7月と9月に取穴大会を開催した。</p>

鈴鹿医療科学大学

<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1 目標            合格率 100%            入学者あたりの合格率 90%を目標とする。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            受験者あたりの合格率は 100%であったが、入学者あたりの合格率は 68%であった。</p> <p>2 指導内容            教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。</p> <p>①1年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            全教員が国家試験へ気概があり、意識した授業を実施している。</p> <p>②関連科目の期末試験は、国試過去問題とオリジナル問題で評価する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            担当教員が国家試験を意識したオリジナル問題を作成・評価した。</p> <p>③対策授業の指導を強化し、要点文集を段階的に暗記させ、全て暗記するまで確認試験を繰り返す。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            4年生の対策授業で実施。</p> <p>④成績不振者を月1回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問によりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            4年生は実力テストの結果から、1～3年生は期末テストの結果から60点未満の学生に対し、補講を行い、各教員で口頭試問、小テストを行った。</p> <p>⑤モチベーション維持・向上のために、定期試験後や補習終了後に個別面談を行い、学生を叱咤激励しながら国家試験まで一緒に取り組んでいく。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            国試対策委員と学科長による個別面談を実施、それに加えて担当教員を割り振りして学習状況、小テスト確認を行った。</p>
<p>4. 市民公開講座</p>	<p>第12回鍼灸サイエンス学科 市民公開講座を下記内容で開催する。            令和元年6月29日(土)10:00～15:00</p> <p>① 講演Ⅰ「膝の痛みを防ぐ!」長岡伸征            ② 講演Ⅱ「健美和膳弁当の解説」高木久代            ③「健康相談」学科教員            ④体質チェックと体質にあわせた薬膳茶コーナー  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>            およそ220名が参加して盛況に終了することができた。午後から体質チェック・薬膳茶試飲とともに学科教員による健康相談を実施し、健康相談約100名ほどの相談を受けた。</p>

第2 - 2期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（臨床工学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および社会の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の実施</li> <li>5. 学生確保の取り組み</li> </ol>	
<p>責任者:臨床工学科長 分担者: 事務局:教務課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>①大学新入時にEarly exposureを行い、初年次教育の充実を図る。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      計画的に予算を編成し、2か所の病院でEarly exposureを初年次教育として行った。</p> <p>②臨床工学科教育の質保証委員会を発足し、カリキュラム等について検討する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      委員会を発足させ、学科カリキュラムなどについての検討を行った。</p> <p>③4年前期・後期に開講される学科全教員による国家試験対策としての特別演習科目の充実を図る。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      学科教員全員による国家試験に対する特別演習を前期・後期に行った。</p> <p>④演習・実習科目においてルーブリックを評価尺度として用い、総合評価に反映させる。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      実習科目で一部ルーブリックを取り入れているが十分ではない。</p> <p>⑤新学修サポートシステムの教員活用を進める。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      新たなLMSが導入され、教員活用が進められた。</p>
2. 学習支援と向学心の高揚	<p>①GPAに基づき学習指導計画を図ると共に GPA 上位学生の進路を含めた早期活動の促進を図る。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      GPAに基づきクラス編成され、国家試験対策や就職活動に活用された。</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>②自治体が行う健康イベント等への参加・協力を促す。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          鈴鹿市が行った健康フェアにブースを開設し、参加した。</p> <p>③学生へのボランティア活動情報を提供し、自治体が行うイベントへ参加(展示等)する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          ボランティア情報を学生に提供し、ボランティアセンターへの登録を促した。鈴鹿市(弁天山公園)ふれあい広場で学科のブースを開設し、学生とともに参加した。</p> <p>④欠席の多い学生に対して、担任から早期に連絡を取り状況を把握する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          各学年の担任により、学生への早期の連絡や相談、面談が行われた。</p> <p>⑤大学祭における学科発表の支援強化を行う。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          担当教員の支援により、大学祭での充実した学科発表が行われた。</p>
<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>①新卒学生の 100%合格を目指し、入学者あたりの合格率の目標設定として 90%を目指す。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          新卒学生の合格率が全国 90.7%に対して本学が 95%,新卒+既卒が全国 82.1%に対して本学 93%と上回る結果となった。入学者あたりの合格率は入学時 48 名に対し、卒業者数 36 名で 75%となった。</p> <p>②合格ラインへの到達に向け、GPA 及び模擬試験によるクラス別編成を行い、前期より、自習の義務付け並びに国家試験対策補講出席を促す。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          学生自身の学力レベルの把握を促すため、クラス編成により、早期から国家試験への取り組みが行われた。</p> <p>③国試頻出問題のポイントを指導、必須基本問題を繰り返し行う。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          各教員による指導分野のスライド作成により、国家試験重点ポイントの指導が行われた。</p> <p>④各クラス別学生の進捗に対応した国試対策や学修サポートを行う。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          A,B,C レベルに分けたクラス編成により、学力レベルに対応したサポートが行われた。</p> <p>⑤各教員が国家試験の専門分野に精通し、国試全体も把握している。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          各教員がそれぞれの専門分野以外の把握に努めている。</p> <p>⑥国家試験サポートソフトウェアの教員活用を進める。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          国家試験サポートソフトウェアのインストールを進めているが、演習科目や特別講義での活用が主である。</p> <p>⑦国家試験全国統一模擬試験の 3 年次からの受験を促し、早期より国家試</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>験への意識を高める。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          ほぼ全員が、全国統一模擬試験3日中少なくとも1回は受験し、早期より国家試験への意識を高めた。</p>
<p>4. 市民公開講座の実施</p>	<p>①題名「ホネを解剖する」 講演:医用工学部臨床工学科教授 那須史男先生  <input type="checkbox"/> 達成(100%) <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <b>■大幅な遅れ有(30%未満)</b>  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          予定した講師の変更があり、年度末に予定したが新型コロナの影響で中止となった。</p>
<p>5. 学生確保の取り組み</p>	<p>①オープンキャンパスでの在校生の参加をすすめ、本学臨床工学科パンフレットの配布及び臨床工学技士業務についてのDVDや頒布品の配布を行う。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          学科オープンキャンパスへ毎回、在校生が参加し、学科紹介パンフレットやDVDの配布を行い、来場者や父兄への説明を行うとともに質問等に答えた。</p> <p>②高校へ出張授業や大学紹介イベントへの参加をすすめる。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          大垣西高校で臨床工学技士について出張講義を行った。桜島小学校電子工作教室に参加し、本学の簡単な紹介を行った。</p> <p>③臨床工学技士紹介イベントへの大学学科紹介ブースでの参加をすすめる。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          愛知県での数千人規模の臨床工学技士紹介イベントに養成校として参加し、本学の紹介及びパンフレットの配布を行った。</p> <p>④3年次より就職ガイダンスや各種対策講座への参加を促し就職活動を進める。  <input type="checkbox"/> 達成(100%) <b>■ほぼ達成(実行中・80%)</b> <input type="checkbox"/> 遅れ有(50%) <input type="checkbox"/> 大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          3年次より各種対策講座(身だしなみ、メイク、小論文)への参加を促し就職活動の準備を進めた。就職ガイダンスについては新型コロナウイルスによる学生登校不可の状況により個別で対応をしている。</p>



第2－2期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（医用情報工学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】 2018-2020 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善</li> <li>2. 学習支援と向学心の高揚</li> <li>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の開催</li> </ol>	
<p>責任者: 医用情報工学科長 分担者: 事務局: 教務課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
<p>1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善</p>	<p>①2018年度に引き続き、2019年度においても卒業生などの外部講師による講演、上位学年による各種の成果発表会への下位学年の参加など、自分の将来についての具体像を学生に気付かせる機会をさらに充実させる。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      2年生医療情報セミナーⅠや医療人底力教育(学科枠)、3年生の病院実習の発表会など複数の機会を使って、外部講師による講演や上位学年の経験を聞く機会を設けている。</p> <p>②アクティブラーニング形式の授業をすることが難しい知識中心の授業においても、学生自らが考えたり討議したりする機会を増やすことでより深い理解が得られるように改善する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      例えば、医療情報技師セミナーⅠでは、1グループ5名程度のグループに分かれてそれぞれ異なる問題についてグループで議論して発表して貰い、その後解説をするという試みを行った。学生同士の議論が進み、授業を楽しんで授業を受けている感じがあるが、クラスの中で活発に議論する学生は大体決まっていて、議論に消極的な学生を救うには、グループ分けなど別の工夫が必要であること、予定していた講義内容をすべてこなすには時間が足らず、課題の提示の仕方についても工夫が居ることなどの問題点が判ってきた。</p>
<p>2. 学習支援と向学心の高揚</p>	<p>①2018年度に引き続き、2019年度においても進路を考える上で必要となる自身の適性や能力に関する学生自らの気付きを助ける情報をラダーチャートに図示して学生に提示し、その内容を踏まえながら、個々の学生に自身の目標とその目標に対する行動計画を立てさせる。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      2年生医療情報セミナーⅡがこのテーマに直接取り組んでいる科目です。昨年度と同様、実施した。</p> <p>②2018年度は、その後のフォローアップが出来ていなかったため、2019年度は、3年次にその後の経過について反省会を企画する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>フォローアップは、進路指導担当の窪田先生が個別に担当しています。窪田先生は4年生クラス担任ですが、就職担当という任務も担っており、そこから進路指導という役割が課されます。このことから、彼には1年生から4年生までを含め、進路などに悩んでいる全ての学生の情報が届く形で組織が動いています。ただ、この形では窪田先生に多大の負荷がかかります。情報の一極化は良いとしても、その後のフォローは組織全体で対応できる形に変更したいと考え、それがこの活動計画です。組織の中でこのような体制ができてしまって、かつ、学生の為に一所懸命な先生が担当してしまうとなかなか組織全体で動かす形にすることが難しく、良い打ち手が見つかっていません。</p>
<p>3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>①資格を取得することに積極的でない学生のために、資格を取得することの意義を話す機会を増やす。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          ガイダンスなどいろいろな場面で資格取得の重要性を伝えています。資格試験を受験する学生数、並びに、合格数も増加しているという報告を受けています。</p> <p>②学科内で、各科目の講義内容とその目的について議論し、特に資格試験対策科目については通常の科目とは異なる教育方法を取らなければならないことについて担当教員間で意識統一を図る。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%)<input type="checkbox"/>遅れ有(50%)<input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          新学科設立の話があったので、この件に関して新学科の構想を練る段階で議論をしているが、本格的な議論は2020年度の新学科の開設が認可された時点で始めます。</p> <p>③2018年度に引き続き、徹底した少人数教育により合格率の向上に努める。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          資格試験対策科目の目的を、「内容を教える」から「該当する試験に合格する」に変更した。この結果、資格試験対策科目の履修者は、該当する資格の取得を目指す学生に限定されてきた。その結果、教育がやりやすくなり、例えば、ITパスポートや診療情報管理士の資格試験などでは正規の授業以外に特別授業が開講できるように、実際に開講された。</p>
<p>4. 市民公開講座の開催</p>	<p>AIが医療に及ぼす影響など、「医療と情報」という観点で適切なテーマを設定し、市民向け公開講座を定期的で開催する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          新学科設立の話があり、学科創設準備の為に延期しました。2020年度、新学科の設置が認可され次第、企画することで進みます。</p>

第2-2期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（薬学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】 2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善と国試合格率の改善</li> <li>2. 学生支援体制を強化する</li> <li>3. 研究活動に関する中期目標を定め、特色をもつ研究を進める</li> <li>4. 市民公開講座を開講し、社会貢献をおこなう</li> </ol>	
<p>責任者:薬学科長 分担者:山本秀孝（学生部委員会）、飯田靖彦（教務部委員会）、田口博明（国試委員会） 事務局:教務課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善と国試合格率の改善	<p>低学年から高学年までの学部学生に対する教育体制を充実することにより、個々の学生の学力を向上させ、薬剤師国家試験の高い合格率を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の充実のため、薬学教育センターを設置し、必要な教員の配置を行い、リメディアル教育の実施や成績不振学生への支援を強化して、薬剤師国家試験合格へとつなげる。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      6年生への介入、特に中下位層への介入を昨年開始している。十分な成果につながるかはこれからの評価となるが、多くの受講学生はしっかりとプログラムを実施している。</li> <li>・教務部委員会において現行カリキュラムを見直して、改善する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      旧コアカリキュラムから新コアカリキュラムへの移行もスムーズで、移行期間過渡期の学生に対してもしっかりと対応できている。</li> <li>・薬剤師国家試験の合格基準点が見直され、合格点変動することから、目標合格率等を数値として示すのは困難である。従って、対受験者合格率は全国私大平均を超えること、対入学者合格率はそれに近づくことを目標とする。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      合格率は一昨年に比べて下がったものの、合格者数は昨年度よりも1名増やすことができた。ストレート合格率も44.0%から45.2%と上昇させている。</li> </ul>
2. 学生支援体制を強化する	<p>学習活動支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新設する薬学教育センターによる、留年生、学業成績不振学生、卒業延期学生への支援強化を行う。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      薬学教育センター所属の石嶋准教授を中心に、国家試験・CBT対策委員会としても委員全員で、留年生、学業成績不振学生、卒業延期学生への支援強化を実施した。2018年度に比べて2019年度は、留年生は31名か</li> </ul>

ら26名に減少しており、卒業延期学生は35名から29名に減らすことができました。

しかし、学業不振者については、GPA(通算のGPA平均)が2.0未満の学生が2018年度は28.0%であったのに対して、2019年度は29.2%と増加していた。また、CBT試験不合格者については2018年度5名であったのに対して、2019年度は8名と増加している。

・リメディアル教育の実施:新入学生に対する、入学時確認試験成績不振科目(化学、生物)についてリメディアル教育を学科独自で行う

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

化学、生物について成績不振者に対して補習を実施した。参加者はすべてのプログラムについて実施したが、その成果については検証できていない。しかし、7月に実施したCBT模試では正答率が、生物系の問題は全国平均であり、化学系に至っては9%も高い結果となっている。化学に関しては多くの模試で高い水準を維持できており、リメディアル教育の効果が現れてきているものと考えている。

・学習環境の整備:自習室の開放とオフィスアワーの設定を推進する。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

白子教務課の協力の下、自習室解放は4年生、6年生の受験勉強、定期試験勉強などに盛んに利用されている。併せて図書館も自学のために有効利用されている。

学生の学習意欲向上への取組

・オリエンテーションの充実:新入生、在校生オリエンテーションを行う。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

新入生、在校生へのオリエンテーションが実施され、また、適宜ガイダンスなども実施された。

・担任制度の充実:担任面談を定期的に行う。また、担任を介した学生および保護者からの意見集約を行う。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

定期的担任面談が実施され、また、成績不振者を中心に担任面談でしっかりとフォローされてきた。

・学生主体によるイベント開催への支援を行う。

学生生活支援を拡充させる

・健康支援(定期健康診断)、経済的支援(奨学金の紹介)、生活環境の整備(学生生活調査を実施)を行う。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

白子事務部(保健室含む)の協力の下、健康支援(定期健康診断)、経済的支援(奨学金の紹介)、生活環境の整備(学生生活調査を実施)が実施された。

就職支援活動の充実

・インターシップの紹介、就職ガイダンス、企業説明会などを開催し、就職支援を行う。

達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) 遅れ有(50%) 大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

学生部の協力の下、学生部委員会により、インターシップの紹介、就職ガイダンス、企業説明会が実施された。

鈴鹿医療科学大学

<p>3. 研究活動に関する中期目標を定め、特色をもつ研究を進める</p>	<p>・科学研究費助成事業に継続的に申請し、選定された先進的な研究課題に積極的に取り組み、その成果を社会に還元するサイクルを有効に機能させる。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 例年、薬学部の科研費の採択数は多いが、本年度の新規採択数は2件に留まり、全体数としても昨年度の25件から23件に減少している。</p> <p>・大学ホームページ、フェイスブックに研究に関する情報発信をし、さらに三重県の企業との連携構築を行い、より多くの外部資金が獲得できるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 継続して三重県の企業との連携構築を行っているが、新規の連携は行われていない。</p>
<p>4. 市民公開講座を開講し、社会貢献をおこなう</p>	<p>市民公開講座を年数回開催し、身近な「健康」や「身体」をキーワードに、薬学・医学に関する知識や情報を広く一般の方々に提供することにより社会貢献を行う。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 春開催を予定したが、新型コロナウイルス感染問題のために開催できなくなった。</p>

第2 - 2期の活動計画の達成状況

重点分野 12：各学科教育の特色（看護学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】 2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2020年度入学定員 100名および新カリキュラム導入のための準備をするとともに、教育内容の充実と教育方法等の改善をはかる。</li> <li>将来の専門職者としての向学心を育成する。</li> <li>看護師・保健師国家試験合格率の向上とその達成に向けた教育指導の充実をはかる。</li> <li>地域の人々が自分らしく生活することを目指して、市民公開講座を開催する。</li> </ol>	
<p>責任者:看護学科長 分担者:2018～2019年度 國分真佐代（教務委員長）、郷良淳子（学生委員長） 2020年度 中井三智子（教務委員長）江口秀子（学生委員長） 事務局:教務課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 2020年度入学定員 100名および新カリキュラム導入のための準備をするとともに、教育内容の充実と教育方法等の改善をはかる。	<p>①2020年度入学定員 100名になるに当たり、三重県を網羅した臨地実習が適切に実施できる施設等を確保するための準備をするとともに、臨地実習を通して地域性や文化的背景、個人の価値観をふまえた看護実践力を育成する。</p> <p>◆2020年度1年次看護体験実習が適切に実習できる施設等を確保する。</p> <p>2021年度2年次基礎看護学実習についても実習施設の準備をする。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 実習施設の確保ができた。</p> <p>◆1年次看護体験実習、2年次基礎看護学実習、3・4年次各看護学臨地実習、4年次統合実習について、病院・施設関係者と連携し、実習目的・目標に照らし合わせた実習を行い、看護実践力を育成する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 1年生の新カリキュラムについては、実施後の検討が必要である。</p> <p>②これまでの教育の課題を踏まえて改正した新カリキュラムのすみやかな運用に向けて準備をする。</p> <p>◆2020年度入学生適用の新カリキュラムについて、進級基準、新旧科目の読み替えや履修登録単位数の上限について検討する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 新カリキュラムの運営は速やかに行えた。</p> <p>③入学定員変更に伴う教育環境の整備を行う。</p> <p>◆2020年度入学定員 100名になるに当たり、講義室・実習室等の施設・設備や物品の整備を行う。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2-4年生の必要分は今後経時的に準備する。</p>

鈴鹿医療科学大学

<p>2. 将来の専門職者としての向学心を育成する。</p>	<p>①1年次の早期に臨床等で専門の資格を持って活躍する看護職者と接する機会をつくり、将来のビジョンを描く手がかりとする。</p> <p>◆2019年度医療人底力実践基礎Ⅰ学科プログラムにおいて企画する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          毎年工夫をしながら、上級生や現場の看護師との交流を実施している。2020年度は、オンラインであったが、4年生や卒業生、現場の看護師との交流ができた。</p> <p>②初期教育の一環として接遇教育を取り入れ、専門職にふさわしい態度等を学ぶ機会をつくる。</p> <p>◆臨地実習直前のマナー講座を1-3年生対象に実施し、学生の看護に対するモチベーションを高め、実習施設での看護師からの学生の評価を補完する効果を期待する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          2018-2019年度は実施できた。2020年度は対面式が難しく検討中である。</p> <p>③在校生がクラスを超えて交流する機会や卒業生との交流の機会を持ち、クラスや先輩・後輩の一体感・連帯感を育むとともに、4年間の学修について予測性をもって進めることができるようにする。</p> <p>◆2019年度医療人底力実践基礎Ⅰ学科プログラムにおいて、1年次と4年次・卒業生が交流する企画を実施する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          円滑に実施でき、学生の評判もよかった。</p> <p>◆2019年度後期ガイダンス終了後に「3・4年生臨地実習等情報交換会」を企画し、3年生と4年生が交流する機会をつくる。その際、1・2年生にも参加を呼び掛ける。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          円滑に実施でき、学生の評価もよかった。</p>
<p>3. 看護師・保健師国家試験合格率の向上とその達成に向けた教育指導の充実をはかる。</p>	<p>①1年次から4年次まで、各学年の学修内容にあわせた国家試験対策を計画する。</p> <p>◆2019年度1年生は7回の解剖生理学の学修会、2年生は7回の病態治療の学修会、3年生は前期16回の外部講師による解剖生理学・病態治療のセミナー、後期は実習のない週に実習グループごとに約4日の自己学習会、4年生は63回のセミナーとハイリスクグループへの22回(一部人数により2クラス編成)のセミナーを実施する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          学生のニーズに合わせてつつ、予定回数は実施できた。</p> <p>◆2019年度外部講師によるセミナーを1年生から段階的、系統的に実施し、低学年からの系統的な知識の修得と学修の促進を図るとともに、成績不振者への対応を低学年から行う。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          低学年からの対応をさらに充実させる必要がある。</p> <p>◆4年次模試の結果から、確実に国家試験に合格できる水準に達成できるよう、11月初め～1月末まで少人数のハイリスクグループへの学修支援を強化する。保健師国家試験対策として、16回のセミナーを実施する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          上記の内容は実施できたが、ハイリスクグループのセミナーの満足度が高くはなかったため、セミナー内容や展開方法をさらに充実させる必要がある。</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>②国家試験対策を充実したものとするための予算を確保するとともに、保健師国家試験対策の強化を図り、合格率を向上させる。</p> <p>◆2019年度外部講師予算を確保し、国家試験対策を充実させる。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容          外部講師の一部が不評であったため、2020年度は外部講師の選定を一部再考する必要がある。</p> <p>◆2019年度保健師国家試験模試を段階的・定期的実施し、出題の50%を占める保健統計、疫学、関係法規について、外部講師による集中セミナーを開講する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容          実施できた。さらに苦手な内容については、外部講師と学生委員会が連携し、2コマセミナーを設定した。</p> <p>③学生の自己学修時間や場所の確保等について環境整備をする。</p> <p>◆2019年度臨地実習スケジュールをもとに自己学修時間の確保時期を明確にして学生と共有する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容          学生の集中力を高める工夫をさらに行っていく。</p> <p>◆担任教員による学修状況の確認と学修指導を行う。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容          さらに充実させる。</p> <p>◆自己学修スペースとしてゼミ室や講義室を確保し、学修環境を整える。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容          11月からは平日のゼミ室開放と夜間の教室開放、1月以降は土日の教室開放も加えて実施した。</p>
<p>4. 地域の人々が自分らしく生活することを目指して、市民公開講座を開催する。</p>	<p>①近隣地域在住の一般市民を対象に、人間・環境・健康・看護に関するテーマで「市民公開講座」を開催する。</p> <p>◆専任教員からテーマを募り、人々が健康的に過ごすこと、病気にならないように予防すること、家庭で役立つ看護の技を学ぶこと、健康問題に関する悩み・心配事の相談といった内容で「市民公開講座」を企画・開催する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容          参加人数をさらに増やしていく工夫を行う。</p>